

## 商店街における「連携」に関する

# 活性化資料

～ワークショップのとりまとめ～



# ワークショップの概要

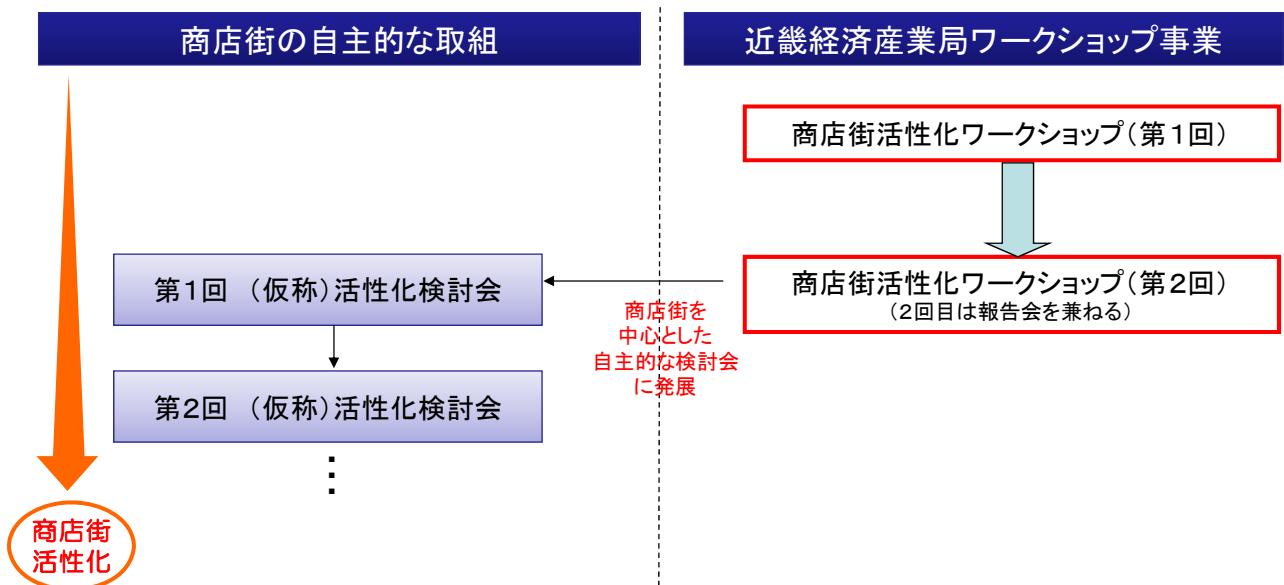
## ■本資料の概要

中心市街地・商店街を取り巻く状況は、年々厳しさを増しています。このような中、行政機関・商業者・まちづくり関係者等が実施する活性化の取組を一層効果的なものとするには、関係者間の「連携」の強化が必要と考えられます。

本資料では、近畿経済産業局の平成 22 年度中心市街地活性化支援等事業「中心市街地・商店街の活性化と情報発信」において実施した 3 地域でのワークショップの成果等について整理しています。

ワークショップは、活性化に取り組もうとしている商店街を対象に、多様な主体との「連携」のきっかけづくりの場として開催しました。また本ワークショップが、第 3 回以降、商店街を中心とした自主的な検討会に発展することを期待し実施しました。

図表 1 ワークショップをきっかけとした、商店街の自主的な取組への発展イメージ



## ■ ワークショップの開催地と開催内容

ワークショップは近畿経済産業局管内の3つの商店街で各2回（2回目は報告会を兼ねた）実施しました。開催内容は以下のとおりです。

図表 2 ワークショップの開催概要

	第1回	第2回(報告会を兼ねる)
能登川地域 (滋賀県東近江市)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■日時：10月14日(水)</li> <li>■場所：能登川商工会</li> <li>■参加人数：28名                事業者・住民・まちづくり団体・大学・                企業・市・県・アドバイザー等</li> <li>■検討項目：               <ul style="list-style-type: none"> <li>○能登川の商店街に期待する姿・商店街がめざす姿</li> <li>○めざす姿の実現に向けたアイデア</li> <li>○今後のファーストアクション</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■日時：2月10日(木)</li> <li>■場所：能登川商工会</li> <li>■参加人数：41名                事業者・住民・まちづくり団体・大学・                企業・市・県等</li> <li>■検討項目               <ul style="list-style-type: none"> <li>○商店街で“こんなこと”してみたい！</li> </ul> </li> </ul>
みその商店街 (和歌山県和歌山市)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■日時：12月9日(木)</li> <li>■場所：JA 和歌山ビル</li> <li>■参加人数：25名                事業者・NPO・まちづくり関係者・市・                県・商工会議所・中央会・大学等</li> <li>■検討項目：               <ul style="list-style-type: none"> <li>○空き店舗の解消に向け、商店街が「ます」すべきこと</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■日時：2月8日(火)</li> <li>■場所：みその商店街 みそのホール</li> <li>■参加人数：13名                事業者・NPO・市・県・中央会・アド                バイザー等</li> <li>■検討項目：               <ul style="list-style-type: none"> <li>○商店街の実態把握に向けて</li> <li>○実態把握に向けた効果的なアプローチ方法について</li> </ul> </li> </ul>
甲子園口商店街 (兵庫県西宮市)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■日時：12月21日(火)</li> <li>■場所：甲子園会館</li> <li>■参加人数：43名                事業者・地域住民・まちづくり関係者・                商工会議所・市・県等</li> <li>■検討項目：               <ul style="list-style-type: none"> <li>○甲子園口商店街が「めざすべき姿」</li> <li>○めざす姿に向けたアイデア</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■日時：1月27日(木)</li> <li>■場所：上甲子園公民館</li> <li>■参加人数：28名                事業者・まちづくり関係者・商工会議                所・市・県等</li> <li>■検討項目：               <ul style="list-style-type: none"> <li>○地域の期待やニーズに応える商店街組織に向けて</li> </ul> </li> </ul>

# 能登川地域商店街活性化ワークショップ

## ■ 商店街の概要とテーマ設定

能登川駅地域は JR の新快速が停車することもあり、人口が増加しています。しかし、駅前にある商店街は高齢化が進んでいることに加え、商店街と駅を挟んだ西側に大型店が出店したことで、衰退が進んでいます。このような中、商店街、商工会、地域住民、大学の有志によって、商店街内の町家を改装したまちづくりの拠点整備が進められるなど、新たな動きも生まれつつありました。



このような動きを支援したいと考え、ワークショップを開催いたしました。

「今後、商店街の活性化に多様な主体を巻き込み、こうした動きを加速させることが重要」との視点から、第1回ワークショップでは、商業者・地域住民・まちづくり関係団体・大学・行政・商工会等が集まり、能登川地域の商店街のめざすべき姿とそれに向けた事業アイデアについて検討を行いました。

第2回では、第1回で出されたアイデア等を実行に移すべく、実施時期や実施主体等の具体的な検討を行いました。

## ■ ワークショップの成果

ワークショップには、商業者・地域住民・大学・まちづくり関係団体・行政・商工会等、40名を超える参加がありました。本ワークショップをきっかけに、参加者と商店街の間で、商店街の課題やめざす姿について共有できました。第1回のワークショップ後には、商店街において最も大きなイベントである「えびす講」において、商店街と地域・大学生が実際に連携した取組が行われました。



第2回のワークショップでは、このようなえびす講での連携に関する成果報告や、大学生からの商店街活性化に対する提案が行われました。今後の具体的なアクションレベルにおいて、参加者と商店街とのネットワークが形成されたことが大きな成果の1つです。

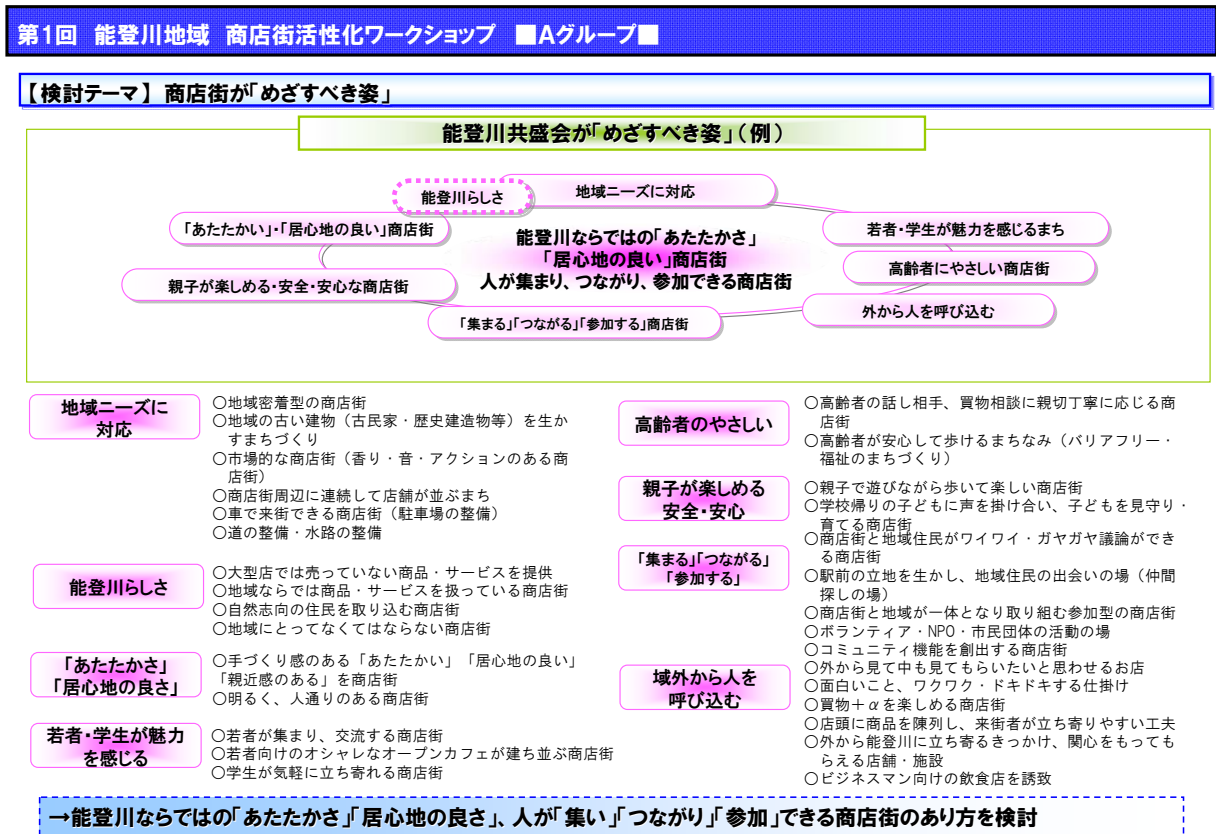
能登川の商店街では、本年度、国の補助事業に採択され、今後、古民家「etokoro（エトコロ）」を拠点とした子育て支援などの活動を進めていく予定としており、更なる活動の加速が期待されます。

### 【ワークショップ開催地からひとこと】～ 能登川共盛会 善住理事長

「出会いは突然やって来る」という言葉があるように、第1回ワークショップを終えた「えびす講」では、地域、大学、商工会、そして地域外へと連携の輪が広がり、農商工連携をはじめ、これからのまちづくりにおいて大学との協働が実現しました。今後は個店の出店やシャッター前の利用などを含め、討論を重ね、コミュニティ溢れる商店街をめざし、次の世代に誇れるものの一つでも残していきたいと考えます。



図表 3 第1回ワークショップの検討結果(例)



図表 4 第2回ワークショップ(兼報告会)の検討結果(例)



## みその商店街の活性化を考える有志の会

### ■ 商店街の概要とテーマ設定

みその商店街は、和歌山県下ナンバーワンの乗降客数がある JR 和歌山駅から徒歩2分という好立地にあるにもかかわらず、店舗の老朽化が進み、空き店舗率が6割に達していることが課題となっていました。

このような中、昨年、商店街の活動に2人の若手が起用され、商店街活性化に向けた活動が大きく加速し始めました。その1人である有井氏は和歌山県内の NPO の中間支援組織

「わかやま NPO センター」の副理事長でもあり、商店街と NPO の共通点を見出し、空き店舗への NPO の入居を支援するなど、空き店舗対策において一定の成果を出しつつありました。しかし、依然、空き店舗は多く存在し、店舗貸しに対する大家の意向も分からないことから、対策に限界を感じつつもありました。

このようななか、第1回のワークショップでは、商店街の店舗を活用してくれそうな方々が参加し、現地視察を行った上で、どのような空き店舗の活用方策が考えうるのかについてアイデア出しを行いました。

第2回は、第1回において「まず空き店舗の実態把握が必要」との結論に至ったことから、空き店舗の実態調査のノウハウがあるアドバイザーを交えて、実態把握のための調査項目や大家へのアプローチ方策等について検討を行いました。



### ■ ワークショップの成果

第1回のワークショップでは、飲食、NPO、野球団体、建築、不動産などの分野の参加者により、商店街単独では思いつかないような空き店舗活用のアイデアが出されました。また、このようなアイデアの中に、今後、すぐにでも具体的なアクションにつなげることができるものがあったことも成果と言えます。



第2回のワークショップでは、アドバイザーから、空き店舗の実態把握に向けた大家とのコミュニケーションの取り方等について、多くのアドバイスがありました。こうしたアドバイスを受け、商店街が大家との連携の展開方策について、ある程度、めどをつけることができたことが成果と言えます。

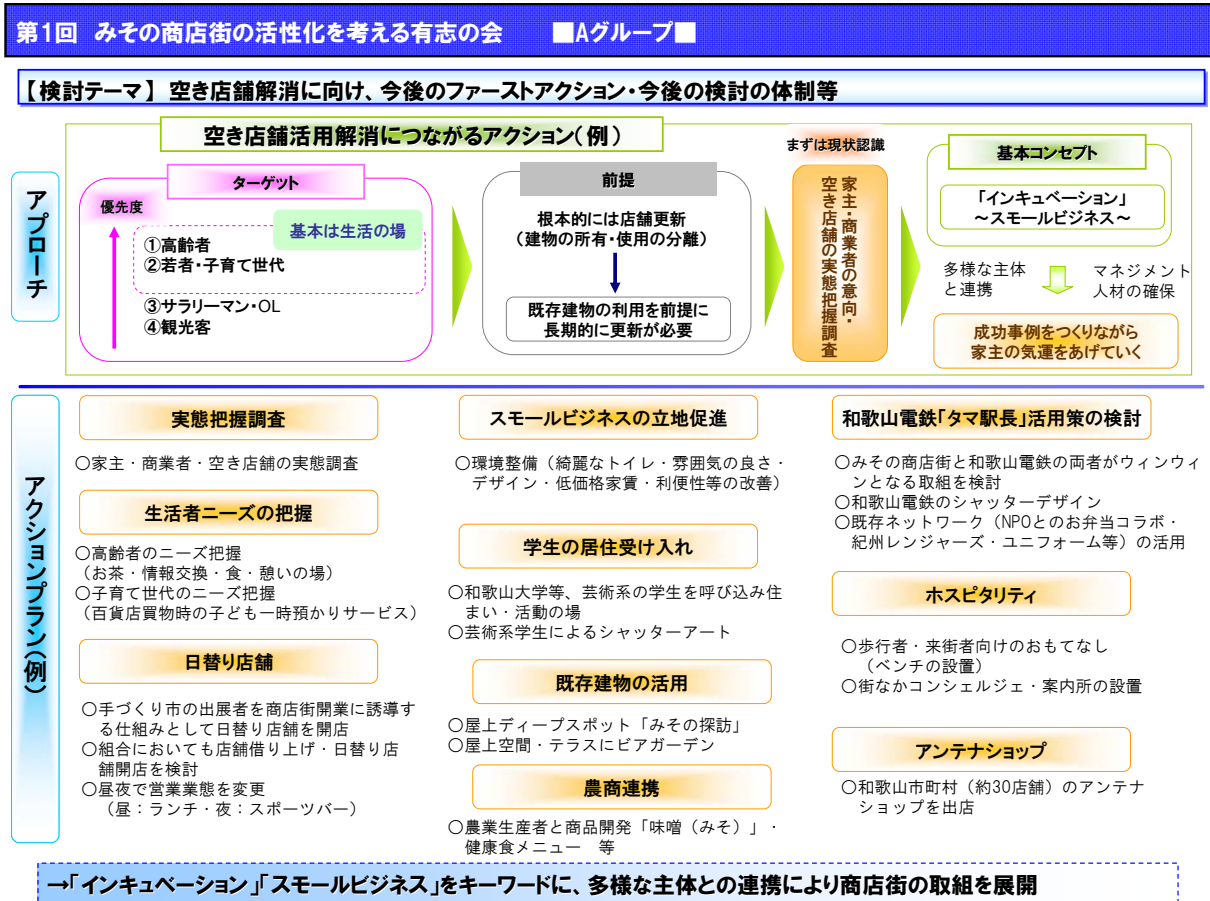
#### 【ワークショップ開催地からひとこと】～ みその商店街 有井副理事長

物から心の豊かさへと、価値観の変化と共に地域住民が商店街へ求めるものも変化しました。

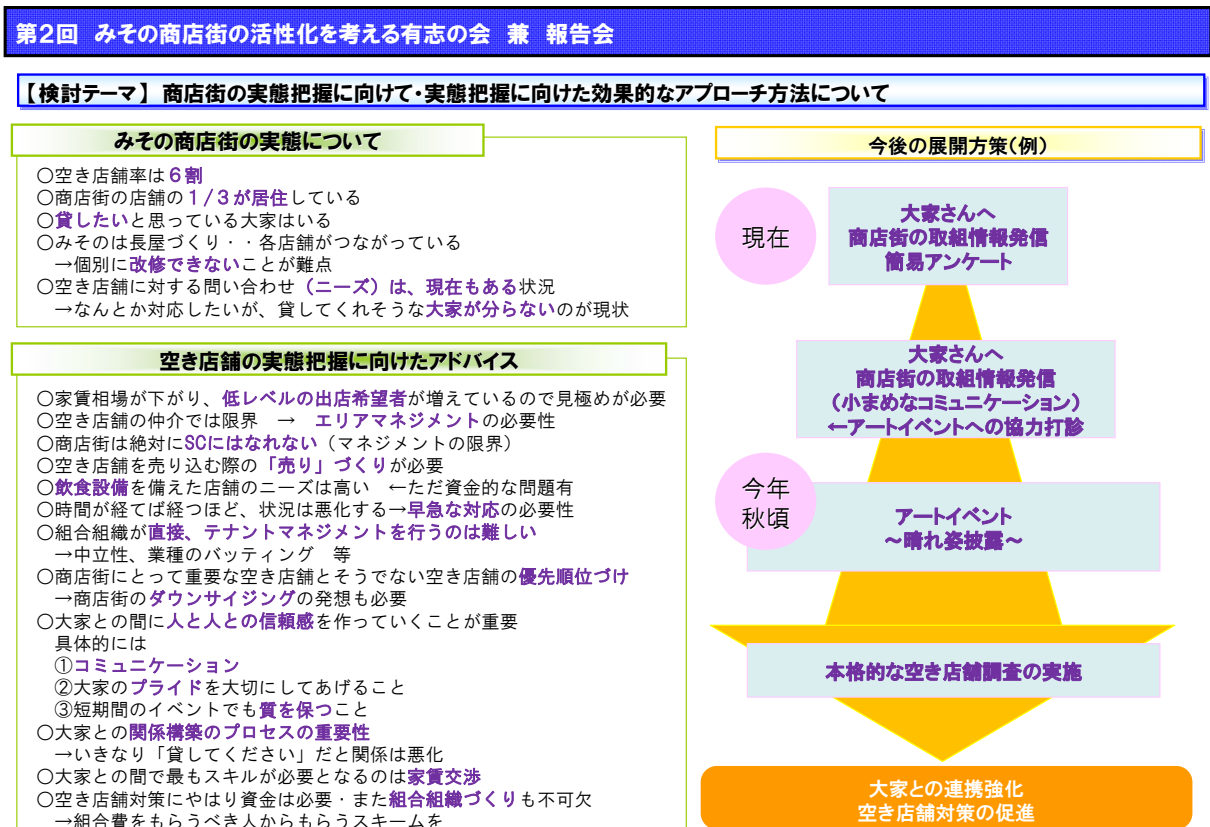
「NPO 商店街」構想は、地域課題解決を担う NPO を商店街内に取り込むことによる商店街内の課題解決も狙いとしています。今後、これらの NPO が商店街と地域の連携接着剤となります。



図表 5 第1回ワークショップの検討結果（例）



図表 6 第2回ワークショップ(兼報告会)の検討結果（例）



# 甲子園口商店街活性化ワークショップ

## ■ 商店街の概要とテーマ設定

甲子園口商店街においては、これまでも商店街活性化に向けた勉強会を実施するとともに「コウちゃん」などのキャラクターを活用した事業に取り組んできました。しかし、近年、地域の高齢化、新規住民の増加、ロードサイド等への大型店の進出等、甲子園口商店街を取り巻く環境が変化してきました。また、各商店街や連合会からは様々な事業アイデアが出されるものの、事業の実施の効果が不明確なことや、費用・労力がかかる事業も多いことから、なかなか実行に移すことができていない状況でした。



このような状況を踏まえ、第1回のワークショップでは、商業者・地域住民・行政等が集まり、甲子園口商店街が「めざすべき姿」について、再度、認識の共有化を図るとともに、その姿に向けて商店街が何をすべきかについて議論を行いました。

第2回では第1回ワークショップで住民等から出た意見を、商店街としてどのように受け止めるのか、今後どのような体制で実行に移していくのかについて、商業者を中心に検討しました。

## ■ ワークショップの成果

第1回ワークショップでは、住民の方々を中心に商店街活性化に関して、様々な意見が出されました。また、一部の参加者からは、「今後、商店街活性化に協力したい」という意向が出されました。このような商店街に対する地域住民の熱い思いや期待を、商業者が肌で感じることができたことが成果と言えます。



第2回のワークショップでは、第1回ワークショップで住民等から出た意見を、商店街がどのように実行に移していくのか検討しました。実行に移す上では、現在の人材だけでは限界があること、そのためには若手等の新たな人材を巻き込んでいく必要があることが、商業者の間で共有されました。また、これまで商店街組織のあり方については十分な議論がなされておりましたが、本ワークショップをきっかけに議論を行い、一定の方向性を共有できたことも成果と言えます。

### 【ワークショップ開催地からひとこと】～ 甲子園口商店連合会 松原会長

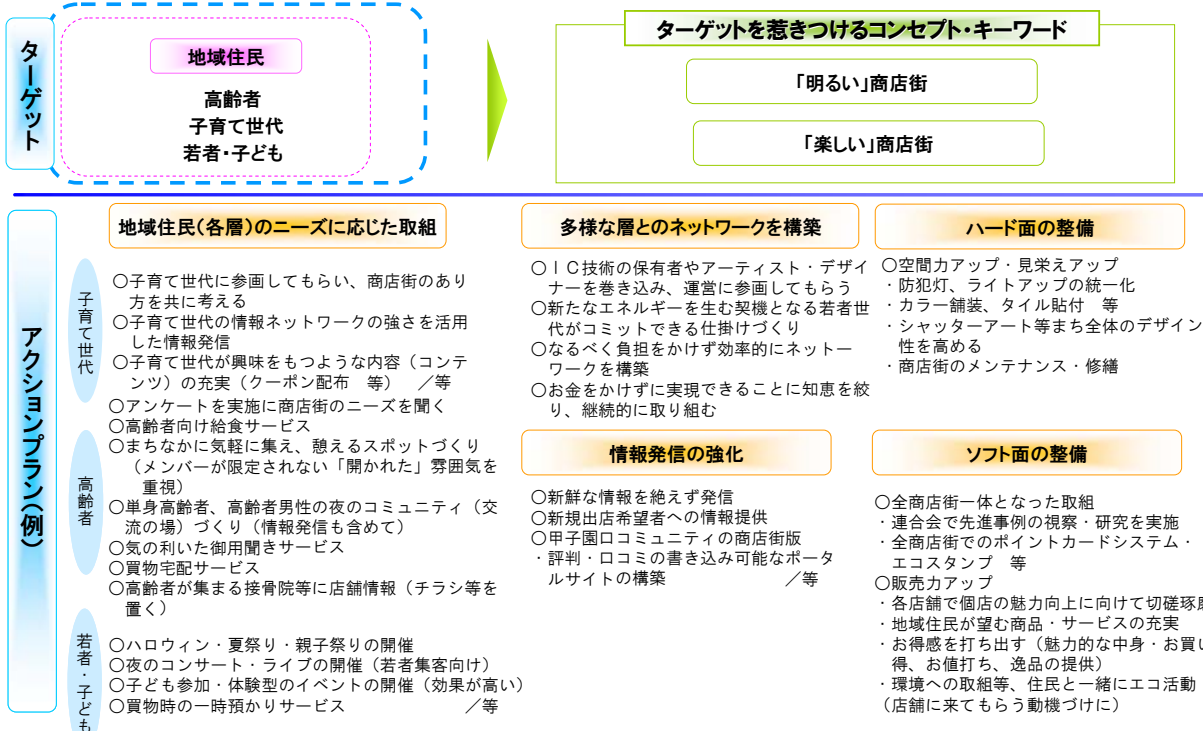
今回のワークショップを通じて、若い人が中心となり商店街を運営している方が活気があると感じました。今、甲子園口商店街が求めることは、若手や二代目の店主等が中心となり、商店街を担っていくような組織づくりの素地と地域住民の参加・協力により意見交換・交流の機会を設けることであり、商店街活動の新たな人脈づくりに精力を傾けることで、今後の商店街活性化が現実になるものと期待します。



図表 7 第1回ワークショップの検討結果(例)

第1回 甲子園口商店街活性化ワークショップ ■Cグループ■

【検討テーマ】商店街が「めざすべき姿」の実現に向けたアイデア



→多様な層とネットワークを構築しながら、地域住民のニーズに対応した「明るい」「楽しい」商店街の取組を展開

図表 8 第2回ワークショップ(兼報告会)の検討結果(例)

第2回 甲子園口商店街活性化ワークショップ(兼報告会)

【検討テーマ】地域の期待やニーズに応える商店街組織に向けて

